

<p>第七課 十一月六日 イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」 ヨハネ 二〇ノ二九 新共同訳</p>	<p>第六課 一月九日 わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。 ヨハネ 一二ノ三一 新共同訳</p>	<p>第五課 一月二日 彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かっていたからです。」 ヨハネ 四ノ四二 新共同訳</p>	<p>第四課 一〇月二六日 イエスは答えて言われた。「はつきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」 ヨハネ 三ノ三 新共同訳</p>	<p>第三課 一〇月一九日 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。 ヨハネ 一ノ一 新共同訳</p>	<p>第二課 一〇月二日 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」 ヨハネ 一一ノ二五、二六 新共同訳</p>	<p>第一課 一〇月五日 このほかに、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスが神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。 ヨハネ 二〇ノ三〇、三一 新共同訳</p>
	<p>第一三課 二月二八日 あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。 ヨハネ 五ノ三九 新共同訳</p>	<p>第一二課 二月二日 そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世にきた。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」 ヨハネ 一八ノ三七 新共同訳</p>	<p>第一課 二月七日 しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。 ヨハネ 一四ノ二六 新共同訳</p>	<p>第一〇課 二月七日 いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。 ヨハネ 一ノ一八 新共同訳</p>	<p>第九課 二月二〇日 わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。 ヨハネ 一四ノ六 新共同訳</p>	<p>第八課 一月二三日 しかし、わたしにはヨハネの証しにまさる証しがある。父がわたしに成し遂げるようにお与えになった業、つまり、わたしが行っている業そのものが、父がわたしをお遣わしになったことを証ししている。 ヨハネ 五ノ三六 新共同訳</p>